

サクッとわかる 3級建設業経理事務士

建設業経理事務士
3級レベル保証テスト

〔第1問〕仙台工務店の次の各取引について、正しい仕訳を選択肢(A)～(E)の中から選びなさい。

ア 秋田商店に対する完成工事代金の未回収分 ¥ 500,000 について、そのうち ¥ 200,000 は現金で、残額は同商店振出しの約束手形で受取った。

- | | | | | |
|-----|------------|---------|------------|---------|
| (A) | (現金) | 200,000 | (立替金) | 500,000 |
| | (受取手形) | 300,000 | | |
| (B) | (現金) | 200,000 | (完成工事未収入金) | 500,000 |
| | (受取手形) | 300,000 | | |
| (C) | (現金) | 200,000 | (完成工事未収入金) | 500,000 |
| | (支払手形) | 300,000 | | |
| (D) | (完成工事未収入金) | 500,000 | (現金) | 200,000 |
| | | | (受取手形) | 300,000 |
| (E) | (立替金) | 500,000 | (現金) | 200,000 |
| | | | (受取手形) | 300,000 |

イ 岩手商店発行の社債券(額面総額 ¥ 100,000)を買い入れ、代金 ¥ 95,000 は小切手を振り出して支払った。

- | | | | | |
|-----|--------|---------|--------|---------|
| (A) | (有価証券) | 100,000 | (当座預金) | 100,000 |
| (B) | (有価証券) | 95,000 | (当座預金) | 95,000 |
| (C) | (有価証券) | 100,000 | (当座預金) | 95,000 |
| | | | (前受収益) | 5,000 |
| (D) | (当座預金) | 95,000 | (社債) | 95,000 |
| (E) | (当座預金) | 95,000 | (社債) | 100,000 |
| | (前払費用) | 5,000 | | |

ウ 青森商店から工事現場に直送してもらった建設資材の代金 ¥ 300,000 について、うち ¥ 200,000 については約束手形を振り出して支払ったが、残額は1ヶ月後に現金で支払うこととした。

- | | | | | |
|-----|-----------|---------|---------|---------|
| (A) | (工事未払金) | 300,000 | (支払手形) | 200,000 |
| | | | (未払金) | 100,000 |
| (B) | (工事未払金) | 300,000 | (受取手形) | 200,000 |
| | | | (未払金) | 100,000 |
| (C) | (未成工事支出金) | 300,000 | (支払手形) | 200,000 |
| | | | (工事未払金) | 100,000 |
| (D) | (未成工事支出金) | 300,000 | (支払手形) | 200,000 |
| | | | (未払金) | 100,000 |
| (E) | (未成工事支出金) | 300,000 | (受取手形) | 200,000 |
| | | | (工事未払金) | 100,000 |

エ 山形商店に対する完成工事代金の未回収分 ¥ 700,000 について、うち ¥ 650,000 については当座預金に振込まれたが、残額は回収不能となった。なお貸倒引当金の残高は ¥ 100,000 である。

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| (A) (未成工事受入金) 700,000 | (当 座 預 金) 650,000 |
| | (貸 倒 引 当 金) 50,000 |
| (B) (完成工事未収入金) 700,000 | (当 座 預 金) 650,000 |
| | (貸 倒 引 当 金) 50,000 |
| (C) (当 座 預 金) 650,000 | (完成工事未収入金) 700,000 |
| (貸倒引当金繰入) 50,000 | |
| (D) (当 座 預 金) 650,000 | (完成工事未収入金) 700,000 |
| (貸 倒 損 失) 50,000 | |
| (E) (当 座 預 金) 650,000 | (完成工事未収入金) 700,000 |
| (貸 倒 引 当 金) 50,000 | |

オ 営業資金の不足を補うため、店主から現金 ¥ 400,000 の一時的な追加出資があった。

- | | |
|-------------------------------|-------------------------|
| (A) (現 金) 400,000 | (事 業 主 貸 勘 定) 400,000 |
| (B) (現 金) 400,000 | (事 業 主 借 勘 定) 400,000 |
| (C) (事 業 主 貸 勘 定) 400,000 | (現 金) 400,000 |
| (D) (事 業 主 借 勘 定) 400,000 | (現 金) 400,000 |
| (E) (事 業 主 貸 勘 定) 400,000 | (資 本 金) 400,000 |

〔第2問〕次の資料は、NS工務店における月次(平成×9年10月)の工事原価計算に関するものである。
 未成工事支出金勘定のア～オにあてはまる金額をそれぞれ<選択肢>の中から選びなさい。

1. 9月末現在の未成工事支出金残高の内訳
 (単位：円)

	21工事	22工事
材料費	47,730	39,090
労務費	23,910	9,855
外注費	90,375	28,275
経費	14,070	12,210
計	176,085	89,430

2. 当月発生工事原価の内訳
 (単位：円)

	21工事	22工事	23工事
材料費	102,735	84,045	326,460
労務費	50,955	44,400	176,145
外注費	111,195	61,125	414,675
経費	20,325	44,310	144,855
計	(各自計算)	(各自計算)	(各自計算)

3. 当月末において21工事と23工事は完成・引渡しを終えているが、22工事は未成である。

未成工事支出金		(単位：円)	
前月繰越	ア	完成工事原価	オ
材料費	イ	次月繰越	(各自計算)
労務費	ウ		
外注費	エ		
経費	(各自計算)		
	(各自計算)		(各自計算)

<選択肢>

ア (A) 89,430 (B) 176,085 (C) 265,515 (D) 285,210 (E) 550,725
 イ (A) 86,820 (B) 476,925 (C) 503,240 (D) 513,240 (E) 600,060
 ウ (A) 33,765 (B) 251,010 (C) 271,500 (D) 281,210 (E) 305,265
 エ (A) 26,280 (B) 525,870 (C) 586,995 (D) 616,245 (E) 705,645
 オ (A) 1,523,430 (B) 1,581,860 (C) 1,612,860 (D) 1,757,310 (E) 1,846,740

〔第3問〕次の<資料1>および<資料2>に基づいて、残高試算表(平成×9年6月30日現在)の
ア～コにあてはまる金額を、下記の<選択肢>の中からそれぞれ選びなさい。
ただし、残高試算表の当月取引高欄は合計額で記入すること。

<資料1>

竹橋工務店の平成×9年6月中の取引は次のとおりである。

(<資料2> の完成工事未収入金に関わる取引を除く)

3日：現場作業員の賃金 ￥ 50,000 を現金で支払った。

5日：銀行から ￥ 250,000 の借入れを行い、利息 ￥ 1,800 を差引き、残額を当座預金に
預け入れた。

7日：材料 ￥ 60,000 を掛で購入し、本社倉庫に搬入した。

12日：材料 ￥ 67,000 を使用するため、本社倉庫より現場に搬入した。

14日：外注業者から作業完了の報告があり、その外注費 ￥ 74,000 の請求を受けた。

18日：銀行へ取立依頼中の約束手形 ￥ 220,000 が期限到来につき、当座預金に振込まれた旨
の通知を受けた。

19日：工事未払金の支払いとして、小切手 ￥ 210,000 を振り出した。

21日：当工務店振出しの約束手形 ￥ 275,000 が期限到来につき、当座預金から引落とされた。

25日：本社事務所の当月電話代 ￥ 45,000 が当座預金から引落とされた。

26日：本社事務所の当月家賃 ￥ 75,000 を現金で支払った。

27日：借入金の当月返済分 ￥ 85,000 が当座預金から引落とされた。

<資料2>

平成×9年5月末および6月末の完成工事未収入金の残高は次のとおりである。

完成工事未収入金

(単位：円)

	5月末	6月末
大手町商事	450,000	320,000
九段下商会	275,000	220,000
合計	725,000	540,000

(注)

1. 上記に関わる入金はすべて当座預金に振込まれた。
2. 当月に完成した工事はない。

残高試算表

平成×9年6月30日

(単位：円)

借方		勘定科目	貸方		
当月残高	当月取引高		前月繰越高	当月取引高	当月残高
ア		700,000	現金		
イ		900,000	当座預金		
		650,000	受取手形		
		725,000	完成工事未収入金		ウ
エ		435,000	材料		
		1,950,000	建物		
		675,000	備品		
			支払手形	580,000	
			工事未払金	525,000	オ
			借入金	1,100,000	カ
			未成工事受入金	458,000	
			資本金	3,500,000	
			完成工事高	1,920,000	
キ		765,000	材料費		
		501,000	労務費		
ク		344,000	外注費		
		180,000	経費		
ケ		241,000	販売費及び一般管理費		
コ		17,000	支払利息		
		8,083,000		8,083,000	

< 選択肢 >

ア (A)	490,000 (B)	575,000 (C)	625,000 (D)	650,000 (E)	760,000
イ (A)	285,000 (B)	753,200 (C)	938,200 (D)	1,023,200 (E)	1,068,200
ウ (A)	55,000 (B)	130,000 (C)	185,000 (D)	320,000 (E)	540,000
エ (A)	308,000 (B)	428,000 (C)	495,000 (D)	502,000 (E)	562,000
オ (A)	315,000 (B)	375,000 (C)	389,000 (D)	449,000 (E)	659,000
カ (A)	765,000 (B)	1,015,000 (C)	1,265,000 (D)	1,350,000 (E)	1,435,000
キ (A)	832,000 (B)	892,000 (C)	899,000 (D)	906,000 (E)	966,000
ク (A)	270,000 (B)	337,000 (C)	344,000 (D)	418,000 (E)	464,000
ケ (A)	253,000 (B)	286,000 (C)	316,000 (D)	361,000 (E)	435,000
コ (A)	15,200 (B)	17,000 (C)	18,800 (D)	20,800 (E)	35,000

〔第4問〕次の<取引>について、3伝票制のもとで、一部現金取引については相手科目を2つに分けて起票する方法をとっている。ア～エの箇所に適切な勘定科目と金額の組み合わせを、<選択肢>の中からそれぞれ選びなさい。

ただし、起票の必要がない箇所については、(D)起票なしを選択すること。

<取引>

平成×9年1月20日、長野工務店は、受注工事が完成したので発注者の山梨商店に引き渡し、その代金 ¥ 550,000 のうち、¥ 150,000 は現金で、残額は山梨商店振出しの約束手形で受け取った。

<u>入金伝票</u> 平成×9年1月20日 <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin: 0 auto; text-align: center;">ア</div>	<u>出金伝票</u> 平成×9年1月20日 <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin: 0 auto; text-align: center;">イ</div>	<u>振替伝票</u> 平成×9年1月20日 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"><div style="border: 1px solid black; width: 80px; height: 20px; text-align: center;">ウ</div><div style="border: 1px solid black; width: 80px; height: 20px; text-align: center;">エ</div></div>
--	--	--

<選択肢>

- ア (A) 完成工事高 150,000 (B) 現金 150,000 (C) 受取手形 400,000 (D) 起票なし
イ (A) 完成工事高 150,000 (B) 現金 150,000 (C) 受取手形 400,000 (D) 起票なし
ウ (A) 受取手形 400,000 (B) 完成工事高 400,000 (C) 受取手形 550,000 (D) 起票なし
エ (A) 受取手形 400,000 (B) 完成工事高 400,000 (C) 受取手形 550,000 (D) 起票なし

〔第5問〕次の<決算整理事項>によって、解答用紙の精算表を完成し、ア～セにあてはまる金額を<選択肢>からそれぞれ選びなさい。

なお、工事原価は未成工事支出金勘定を經由して処理する方法によっている。

<決算整理事項>

- (1) 受取手形と完成工事未収入金の合計額に対して 2% の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
- (2) 有価証券の時価は ¥ 260,000 である。評価損を計上する。
- (3) 機械装置(工事現場用)について ¥ 33,750、備品(一般管理部門用)について ¥ 45,000 の減価償却費を計上する。
- (4) 未成工事支出金の期末残高は ¥ 180,000 である。
- (5) 仮払金 ¥ 20,000 は営業社員の旅費の支払いである。その全額を販売費及び一般管理費として処理する。
- (6) 販売費及び一般管理費には、保険料の前払分 ¥ 4,500 が含まれている。
- (7) 本社の地代の未払分 ¥ 7,500 がある。

< 選択肢 >

ア (A)	600 (B)	4,100 (C)	6,200 (D)	13,200 (E)	14,700
イ (A)	15,000 (B)	260,000 (C)	273,750 (D)	275,000 (E)	276,500
ウ (A)	1,125,000 (B)	2,280,000 (C)	2,510,000 (D)	2,543,750 (E)	2,553,750
エ (A)	33,750 (B)	337,500 (C)	371,250 (D)	382,500 (E)	416,250
オ (A)	33,750 (B)	45,000 (C)	78,750 (D)	263,750 (E)	308,750
カ (A)	4,500 (B)	7,500 (C)	15,000 (D)	19,500 (E)	386,200
キ (A)	1,225,000 (B)	2,380,000 (C)	2,520,000 (D)	2,543,750 (E)	2,553,750
ク (A)	1,500 (B)	15,000 (C)	26,000 (D)	260,000 (E)	275,000
ケ (A)	0 (B)	3,000 (C)	4,500 (D)	7,500 (E)	12,000
コ (A)	0 (B)	3,000 (C)	7,500 (D)	10,500 (E)	18,000
サ (A)	2,675,700 (B)	3,800,700 (C)	4,925,200 (D)	5,223,250 (E)	5,229,450
シ (A)	54,550 (B)	59,050 (C)	65,250 (D)	104,050 (E)	115,050
ス (A)	59,050 (B)	66,550 (C)	92,800 (D)	104,500 (E)	137,800
セ (A)	2,553,950 (B)	2,675,900 (C)	3,027,500 (D)	3,675,500 (E)	3,975,500

精 算 表

(単位：円)

勘 定 科 目	残 高 試 算 表		修 正 記 入		損 益 計 算 書		貸 借 対 照 表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現 金	110,000							
当 座 預 金	350,000							
受 取 手 形	280,000							
完成工事未収入金	455,000							
貸 倒 引 当 金		8,500		ア				
有 価 証 券	275,000						イ	
未 成 工 事 支 出 金	190,000		ウ					
材 料	38,000							
貸 付 金	350,000							
機 械 装 置	750,000							
機械装置減価償却累計額		337,500						エ
備 品	250,000							
備品減価償却累計額		90,000						
仮 払 金	20,000							
支 払 手 形		190,000						
工 事 未 払 金		275,000						
借 入 金		350,000						
未 成 工 事 受 入 金		375,000						
資 本 金		1,250,000						
完 成 工 事 高		3,050,000						
受 取 利 息		20,000						
材 料 費	1,125,000							
労 務 費	670,000							
外 注 費	485,000							
経 費	230,000			オ				
販売費及び一般管理費	312,000					カ		
支 払 利 息	56,000							
	5,946,000	5,946,000						
完 成 工 事 原 価						キ		
有 価 証 券 評 価 損						ク		
前 払 保 険 料							ケ	
未 払 地 代								コ
				サ				
当 期 ()						シ		ス
							セ	

建設業経理事務士 3級レベル保証テスト

答案用紙

〔第1問〕

ア () イ () ウ () エ () オ ()

〔第2問〕

未成工事支出金		(単位：円)
前月繰越 ()	完成工事原価 ()	
材料費 ()	次月繰越 ()	
労務費 ()		
外注費 ()		
経費 ()		
()	()	

ア () イ () ウ () エ () オ ()

〔第3問〕

残高試算表

平成×9年6月30日

(単位：円)

借		方	勘定科目	貸		方
当月残高	当月取引高	前月繰越高		前月繰越高	当月取引高	当月残高
		700,000	現金			
		900,000	当座預金			
		650,000	受取手形			
		725,000	完成工事未収入金			
		435,000	材料			
		1,950,000	建物			
		675,000	備品			
			支払手形	580,000		
			工事未払金	525,000		
			借入金	1,100,000		
			未成工事受入金	458,000		
			資本金	3,500,000		
			完成工事高	1,920,000		
		765,000	材料費			
		501,000	労務費			
		344,000	外注費			
		180,000	経費			
		241,000	販売費及び一般管理費			
		17,000	支払利息			
		8,083,000		8,083,000		

ア () イ () ウ () エ () オ ()

カ () キ () ク () ケ () コ ()

〔第4問〕

ア () イ () ウ () エ ()

〔第5問〕

精 算 表

(単位：円)

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	110,000							
当座預金	350,000							
受取手形	280,000							
完成工事未収入金	455,000							
貸倒引当金		8,500						
有価証券	275,000							
未成工事支出金	190,000							
材料	38,000							
貸付金	350,000							
機械装置	750,000							
機械装置減価償却累計額		337,500						
備品	250,000							
備品減価償却累計額		90,000						
仮払金	20,000							
支払手形		190,000						
工事未払金		275,000						
借入金		350,000						
未成工事受入金		375,000						
資本金		1,250,000						
完成工事高		3,050,000						
受取利息		20,000						
材料費	1,125,000							
労務費	670,000							
外注費	485,000							
経費	230,000							
販売費及び一般管理費	312,000							
支払利息	56,000							
	5,946,000	5,946,000						
完成工事原価								
有価証券評価損								
前払保険料								
未払地代								
当期 ()								

ア () イ () ウ () エ () オ ()
 カ () キ () ク () ケ () コ ()
 サ () シ () ス () セ ()